

地域の医療従事者のためのがん医療セミナーを開催

～今後もがん相談やがんの情報提供に努めます～

市立豊中病院は、地域のがん診療連携拠点病院として、今回お伝えした「がん医療公開講座」を定期的で開催するだけでなく、地域のがん医療水準向上を図るため、地域の医療従事者を対象とした「地域がん医療従事者セミナー」を開催しています。

さる2月16日(土)当院講堂において、約40名の医療従事者が参加し、来年度から取り組みをはじめ大阪府のがん対策や、患者の立場から見たがん医療の課題等について、セミナーをおこないました。当日は、2人の患者会関係者から講演があり、少しその内容についてお伝えをしておきます。

悪性リンパ腫の患者会であるNPO法人グループ・ネクサスの片山環さんからは、「患者の知りたい情報・知るべき情報」と題して講演がありました。

片山さんは、「患者の知りたい情報は、治療前・治療中・治療後でその内容が変化してくる。自分に必要な情報は、インターネットや書籍からだけでなく、がん相談支援センターや患者会が主催するセミナーなどでも収集することができる。しかし、諸外国と比較すると日本の患者への情報量はまだまだ少ない。」と述べられ、「患者会としても、患者が必要とする情報を的確に得られるよう努めているが、患者の身近にいる医療者や行政からも積極的な情報提供をお願いしたい。」と医療従事者へ要望されました。

つづいて、大阪肝臓友の会の西村慎太郎さんからは、「肝臓病患者と地域連携」について講演がおこなわれました。西村さんは、「肝がんの原因の85%は肝炎ウイルスによるもので、肝がん撲滅には肝炎の治療が不可欠である。療養期間が長期となるため在宅での療養・ケアが大切となる。そのためには患者の在宅療養を支援する医療・福祉のネットワークを構築する必要がある。」と述べられたあと、「療養に必要な情報については、がん相談支援センターが核となり患者への情報提供を積極的におこなうこと、支援センターにサロンのような憩いの場を設けて欲しい。」と要望されました。

当院では、患者さんが納得して治療を受けていただくためには、患者さん自らも積極的に治療へ参加し、治療や療養に必要なことについて理解を深めていただきたいと考えております。そのためには、情報は不可欠です。昨年、当院で開設した「がん相談支援センター」では、このような患者さんやご家族への必要な情報の提供や、情報を収集するための支援をおこなっています。



例えば、医師から言われたことや、自分で調べたことが理解できないままでは、せっかくの情報を活かすことはできません。かえって不安が強くなってしまいかもしれません。支援センターでは、難しい情報をやさしく、わかりやすく解説します。

また、「どの病院を受診すればいいの?」「今の治療で大丈夫?」など必要としている情報を一緒に探したり、「聞きたいけれどうまく説明できない。」「がんと言われてから気持ちがスッパリしない。」「そんな時、お話を伺いながら「どうしたら」「どうして」を一緒に探したり、解決の糸口を一緒に考えます。

当院での治療のいかに関わらず、どなたでもご相談いただけますので、お気軽にお問合わせください。

開設日時 月曜日～金曜日(土・日・祝日を除く) 9:00～16:00

相談内容 医療・看護・薬剤・医療福祉相談、食事療法、心理相談など

申し込み 直接にて相談を希望される方は、お電話にて事前にご予約をお願いします。

<費用>無料 <相談時間>30分程度

問い合わせ 市立豊中病院「がん相談支援センター」

TEL:06-6843-0101(代表)内線3461 FAX:06-6858-3551



ただし、「がん相談支援センター」は、現在かかられている担当医(主治医)に代わって治療について判断するところではありませんのでご了承ください。

《 問い合わせ先 》

〒560-8565 豊中市東京町4丁目14番1号 TEL(06)6843-0101 FAX(06)6858-3531
(ホームページ)http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/

編集・発行:市立豊中病院広報委員会(病院管理課) 発行月:平成20年(2008年)3月

病院だより

No.9 市立豊中病院ニュース

基本理念

豊中市の地域中核病院として

『心温かな信頼される医療』を提供します。

基本方針

- 1) 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
- 2) 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
- 3) 医療機関との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
- 4) 高齢化社会に対応する医療を推進します。
- 5) 医療従事者の教育・研修の充実を図ります。

市立豊中病院では、平成19年11月17日(土)阪急豊中駅前(ゆやホール)において「第5回がん医療公開講座」を開催しました。この公開講座は、豊中市民をはじめ地域にお住まいの方を対象に、がん医療に関する最新の情報を提供し、がんに対する正しい知識を身につけていただくことを目的に年に一度開催しています。

今年は「肝臓がん」をテーマとしてとりあげ、当院の医師が、内科・外科・放射線科それぞれの立場から、最新の予防・診断・治療について講演をおこないました。「病院だより」では、当日の講演内容を2回にわたりお伝えしています。今回は、前回お伝えした肝がんの診断・治療につづき、「肝がんにならないために」と題して、肝がんの予防法についてお伝えします。

肝がんの最大の原因となっているC型肝炎とB型肝炎の治療法、ウイルス性肝炎でなくてもメタボリック症候群や肥満が原因で肝がんになることや、それらをふまえた肝臓にやさしい食事療法などについて紹介します。

第3部 「肝がんにならないために」

市立豊中病院内科 相田 正己

■肝がん発症の最大の原因

肝がんの患者さんは近年増加傾向にあり、現在年間約4万人の方が肝がんで亡くなっています。肝がんになる原因としてはC型肝炎が最も多く、全体の約8割を占めています。C型肝炎に感染している人は、わが国で200万人から250万人と推測されており、全人口の2.0%から2.5%、大阪府での感染率はさらに高く約3%の人が感染しています。C型肝炎に感染していることを知らない潜在患者も多くいるものと考えられ、患者数の多さから、C型肝炎は21世紀の国民病のひとつとも呼ばれています。

C型肝炎ウイルスに感染すると、20年や30年という年月を経て慢性肝炎が進行し肝硬変になり、さらに高い確率で肝がんを発生してきます。したがって、C型肝炎の治療一体内からC型肝炎ウイルスを排除すること肝がん発症に対する最も有効な予防法となります。

C型肝炎の検査は、1回の少量の血液検査で可能です。C型肝炎と診断されれば、次に精密検査を要めます。

精密検査には肝機能や血小板数などの血液検査や超音波などの画像検査があり、C型肝炎が今どこまで進行し、現在の活動性はどうかを知ることが出来ます。肝臓は沈黙の臓器ともよばれ、自覚症状に乏しいのが特徴です。C型肝炎と初めて診断された時にすでに肝硬変まで進行していたということもよくあります。自分の現在の状態を良く知り、それに応じた治療を選ぶことが大切です。なかにはC型肝炎に感染していても、全く進行しておらず、現在も活動性のない「正常キャリア」と呼ばれる人もいます。この場合、治療を急ぐ必要はありませんが、将来的に進行してゆくことが多く、定期的に観察する必要があります。

■C型肝炎の治療ーペグインターフェロン・リバビリン併用療法ー

C型肝炎ウイルスは、。群・。群の大きく2つのグループに分けることができます。日本では。群のウイルスに感染している人が多く、かつウイルス量が多い患者さんが多く